平成 27 年度

遺跡調査報告会

2015 年 11 月 14 日 土　午後 2：00 ～ 4：00

重地遺跡

八戸城跡

八幡遺跡

田面木遺跡

展示・報告遺跡

■重地遺跡（八戸市新井田　縄文時代）
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　西村　広経

■田面木遺跡（八戸市田面木　古代）
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　芋坪　祐樹

■八幡遺跡（八戸市八幡　古代）
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　横山　寛剛

■八戸城跡（八戸市内丸　江戸時代）
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　船場　昌子

田面木遺跡出土
「方人」(推定) 銘墨書土器

八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館
〒031-0023　青森県八戸市是川字横山 1
TEL 0178-38-9511　FAX 0178-96-5392
http://korekawa-jomon.jp

■会場：是川縄文館 体験交流室
■主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

平成 27 年度　八戸市遺跡調査報告会次第

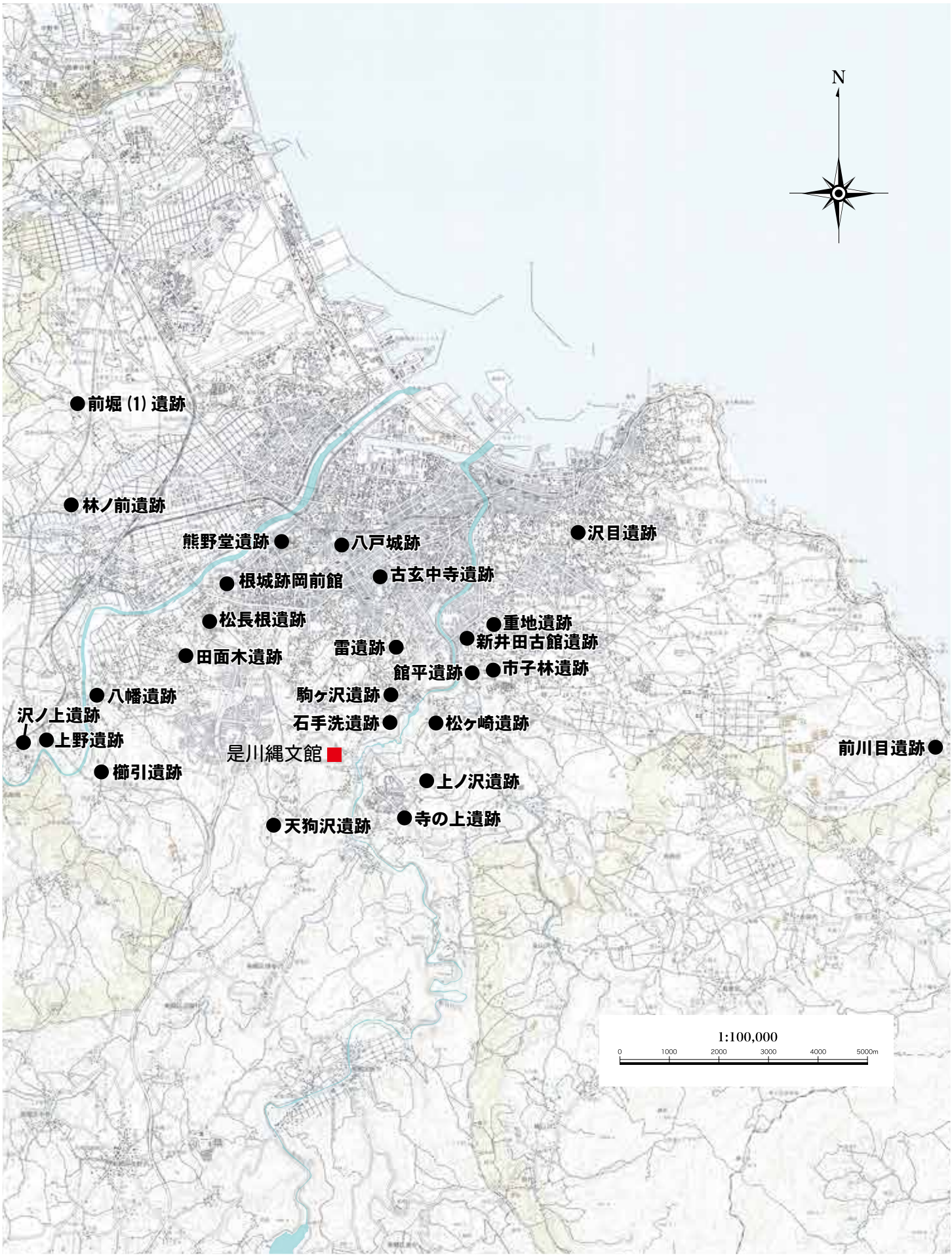
13：00　報告会展示室開場
13：30　報告会受付開始
14：00　開会挨拶
14：05　平成 27 年度調査概要
14：15　調査成果報告　重地遺跡
14：35　調査成果報告　田面木遺跡
14：55　10 分休憩
15：05　調査成果報告　八幡遺跡
15：25　調査成果報告　八戸城跡
15：45　質疑応答
16：00　閉会挨拶
閉場 (報告会展示室は 16：30 まで)

平成 27 年度発掘調査遺跡一覧

		遺跡名	時代・種類	所在地	調査原因	調査面積	調査期間
試掘調査	1	根城跡	縄文・飛鳥～中世　城館跡	大字根城	道路舗装及び水みち整備	19㎡	4月21日～4月24日
	2	前川目遺跡	縄文　散布地	大字金浜	個人住宅増築	7.5㎡	5月2日
	3	寺の上遺跡	縄文　散布地	大字是川	太陽光発電設備設置	30㎡	5月12日～13日
	4	沢ノ上遺跡	弥生・奈良・平安　集落跡	大字上野	太陽光発電設備設置	64.7㎡	5月14日～5月18日
	5	上野遺跡	縄文・平安・中世・近世　集落跡	大字上野	個人住宅建築	20㎡	6月16日
	6	天狗沢遺跡	縄文・平安　散布地	大字是川	個人住宅建築	4.58㎡	5月29日～6月1日
	7	雷遺跡	縄文・平安　散布地	大字田向	個人住宅建築	24㎡	6月16日～17日
	8	古玄中寺遺跡	縄文　散布地	類家一丁目	個人住宅建築	10.25㎡	6月23日
	9	館平遺跡	縄文・平安・中世　集落跡・城館跡	大字新井田	個人住宅建築	42㎡	6月25日
	10	市子林遺跡	縄文・古墳～近世　集落跡	大字妙	個人住宅建築	24㎡	7月8日
	11	前堀(1)遺跡	縄文・平安　散布地	大字尻内町	太陽光発電設備設置	140㎡	7月29日～30日
	12	熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安　集落跡	大字売市	個人住宅建築	3㎡	8月17日
	13	沢目遺跡	縄文　散布地	大字大久保	太陽光発電設備設置	111.5㎡	8月20日
	14	市子林遺跡	縄文・古墳～近世　集落跡	大字妙	個人住宅建築	14㎡	8月21日
	15	櫛引遺跡	縄文・奈良・平安・中近世　集落跡・城館跡	大字櫛引	個人住宅建築	24㎡	8月24日
	16	上ノ沢遺跡	縄文・奈良・平安　散布地	大字是川	児童福祉施設建築	68㎡	8月27日
	17	石手洗遺跡	縄文　集落跡	大字石手洗	範囲内容確認	51.5㎡	9月3日
	18	松長根遺跡	縄文　散布地	大字田面木	個人住宅建築	4㎡	9月15日
	19	松ヶ崎遺跡	縄文・奈良・平安　集落跡	大字十日市	太陽光発電設備設置	120㎡	10月13日～10月14日
	20	駒ヶ沢遺跡	縄文　集落跡	大字石手洗	個人住宅建築	38.75㎡	10月16日
	21	雷遺跡	縄文・平安　散布地	大字中居林	個人住宅建築	8㎡	10月19日
本発掘調査	1	八幡遺跡	縄文・弥生・奈良～近世　集落跡・社寺跡	大字八幡	公民館建築	930㎡	4月13日～6月30日
	2	市子林遺跡	縄文・古墳～近世　集落跡	大字妙	個人住宅建築	26.5㎡	4月27日～5月1日
	3	八戸城跡	近世　城館跡	内丸三丁目	個人住宅建築	280㎡	5月18日～6月9日
	4	重地遺跡	縄文　集落跡	大字新井田	長芋・ごぼう作付け	900㎡	5月12日～6月30日
	5	新井田古館遺跡	縄文・奈良～近世　集落跡・城館跡	大字新井田	太陽光発電設備設置	235㎡	7月13日～8月18日
	6	田面木遺跡	縄文・弥生・奈良・平安　集落跡	大字田面木	長芋・ごぼう作付け	2,000㎡	7月1日～10月30日
	7	林ノ前遺跡	縄文・平安　集落跡	大字尻内町	自然崩壊	1,170㎡	9月1日～10月30日
	8	八戸城跡	近世　城館跡	内丸二丁目・三丁目	道路改良工事	3,270㎡	8月17日～11月中（予定）

10 月現在

報告遺跡



平成 27 年度発掘調査遺跡位置図

重地遺跡

１．遺跡の概要

重地遺跡は八戸市庁から南東に 3.5km ほどの新井田地区に位置しています。新井田川を西に臨む、標高 20 ～ 42m ほどの段丘上に立地し、縄文時代の集落跡として知られています。平成 13 年度の八戸市教育委員会による調査では、縄文時代前期～後期の竪穴住居跡や土坑、土器埋設遺構などを多数検出しており、長期間にわたって利用された遺跡であることがわかっています。今回の調査地点は削平を受けていましたが、もとの地形は東から西に向かって下る緩やかな斜面であったと考えられます。

２．検出遺構

今回の調査では約 900㎡を調査しました。縄文時代前期の竪穴住居跡 11 棟、土坑 35 基を検出しました。

【竪穴住居跡】

平面形は円形や方形などバリエーションがあります。大きさは小さいもので約 2.2m、最大のもので 8m 以上と幅があります。また、調査区東側で検出した SI37 竪穴住居跡を除く 10 棟が調査区北西部に位置し、同じ場所で何度も住居を建てたことがわかりました。出土遺物から、これらの竪穴住居跡は縄文時代前期後半のものであると考えられます。

【土坑】

平面形は円形ないし楕円形で、最大規模のものは直径約 2.6m、深さ約 1.5m です。上部が削りとられて底に近い部分しか残っていない土坑も多く、実際にはもっと深かったものと考えられます。底より口が狭い、フラスコ状土坑と呼ばれるタイプの土坑を多数検出しました。土坑の底面近くでは、完形の土器がいくつもまとまって出土したものがありました。また、土坑のほとんどが自然に埋まったのではなく、人為的に埋め戻されていることから、それらの土器は土坑を埋める際に意図的に投げ込まれたものと考えられます。

３．出土遺物

竪穴住居跡や土坑からは多量の縄文土器や石器が出土しました。縄文土器は全て円筒土器と呼ばれるタイプで、バケツのような筒状の形が特徴です。今回出土した土器は円筒土器の中でも比較的古いタイプで、縄文時代前期後半に位置付けられます。円筒土器の文様には様々な種類があります。多くの土器には繊維を撚り合せた縄を使った文様が施されますが、縄の撚り方によって文様が変化します。また、縄を転がすだけでなく、押し付けたり、棒に巻きつけて転がしたりすることで、文様にバリエーションが生まれます。

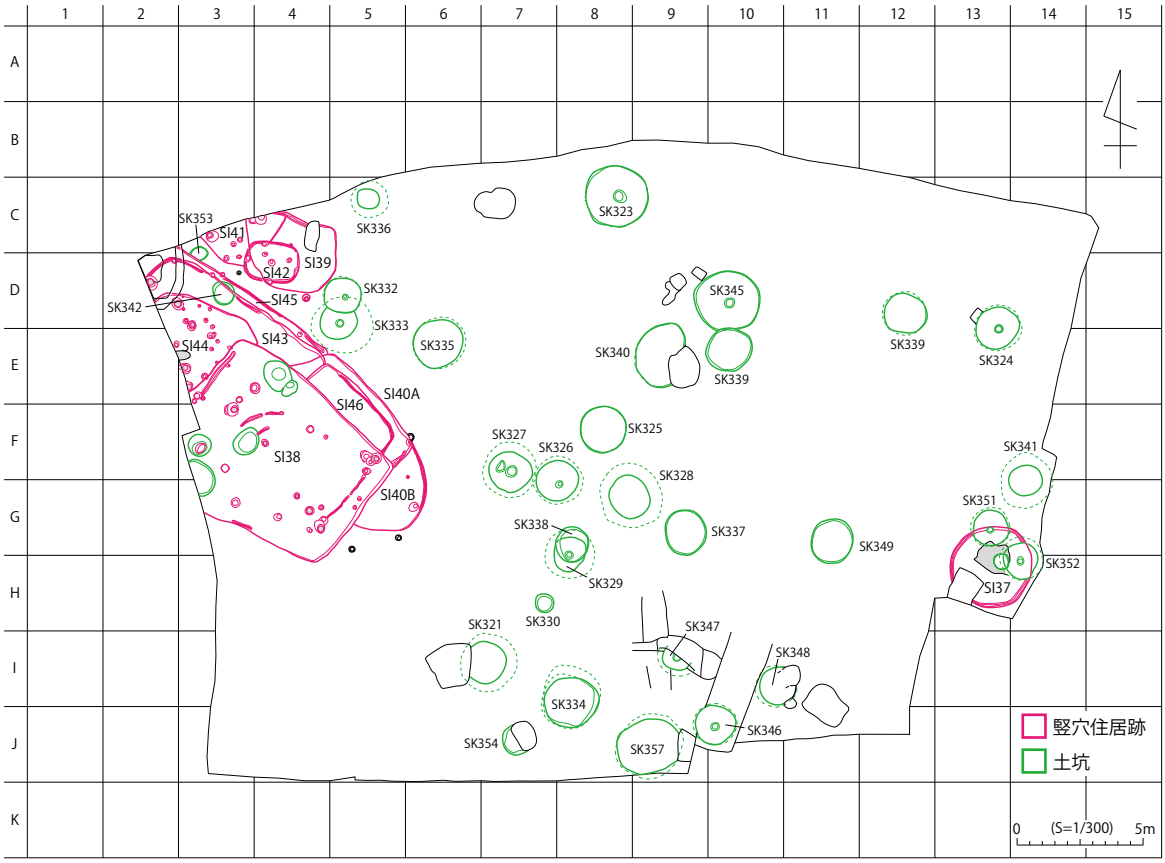
石器には石鏃、石匙、石斧、磨石、敲石、扁平石器などがあります。

４．まとめ

竪穴住居跡や土坑の時期を決める重要な手がかりとなるのが出土した土器です。縄文土器は時期・地域によって特徴が異なるため、縄文文化を研究する際に時間の基準として用いられます。今回の調査で出土した土器のうち、特に土坑でまとまって出土した土器は非常に重要な成果です。なぜなら、ある時期に使用されていた土器のセットを把握することができるからです。

重地遺跡では、同じ時期の遺跡で一般的にみられる遺構（竪穴住居跡・土坑）や遺物（縄文土器・石器）がひと通りそろっています。そのため、他の遺跡の資料と比較しやすく、研究を進める上でとても良い資料を得ることができました。

（西村　広経）



重地遺跡第６地点遺構配置図

ＳＩ３７竪穴住居跡

ＳＩ３８竪穴住居跡

ＳＫ３３３土坑　土器出土状況

ＳＫ３３４土坑(フラスコ状土坑)　土層断面

田面木遺跡

１．遺跡の概要

田面木遺跡は、八戸市田面木地区に所在し、馬淵川右岸の標高 25 ～ 50 ｍの丘陵地に立地しています。遺跡は東西約 400 ｍ、南北約 800 ｍの広さがあり、市内の遺跡の中でも規模が大きい遺跡です。宅地化が急速に進んだ昭和 62(1987) 年以降に、開発に伴う発掘調査を断続的に行っており、今回の調査で 47 か所目となります。これまでの発掘調査からは、主に奈良・平安時代の集落跡がみつかっています。

今回の発掘調査は長芋・ごぼう作付けに伴うもので、平成 25 年に試掘調査を行い、多数の遺構・遺物が発見された調査対象面積 5,890㎡のうちの一部です。平成 26 年に 1,100㎡、今年度は 2,000㎡を調査しています。

２．検出遺構

今回の調査では、飛鳥時代の竪穴住居跡 1 棟、奈良時代の竪穴住居跡 3 棟、平安時代の竪穴住居跡 12 棟・竪穴遺構 18 棟、土坑 8 基、炉跡 2 基がみつかりました。

煮炊きをするカマドを持つ竪穴住居跡は 16 棟みつかりました。カマドは共通して粘土に石や土器を混ぜてつくられていますが、煙を出す口は飛鳥時代には壁の外にわずかに上向きに張り出すだけだったものが、奈良・平安時代には屋外へ煙を排出するために煙道は土の下にもぐり、より長くなる構造が多くなることがわかりました。

また、飛鳥時代の張り出し部分を持つ竪穴住居跡からは大量の炭化した木材がみつかりました。これらは屋根として使われた部材が焼け落ちたものです。どのような屋根が竪穴住居に設置されていたかは詳細にはわかっていませんが、この竪穴住居跡は屋内に 4 本の柱穴があり、屋根材を支えていたと思われます。このような屋内の柱穴は、一辺が 2 ｍ ～ 4 ｍほどの小さな竪穴住居跡からはほとんどみつかっていません。竪穴住居の大きさによって屋根の組み方も変えていたのだと思われます。

カマドを持たない竪穴遺構は、生業に関わる作業場として使われた可能性があります。この集落では平安時代に多くつくられますが、人々の生活にこれまでと違う変化があったことを示しています。

３．出土遺物

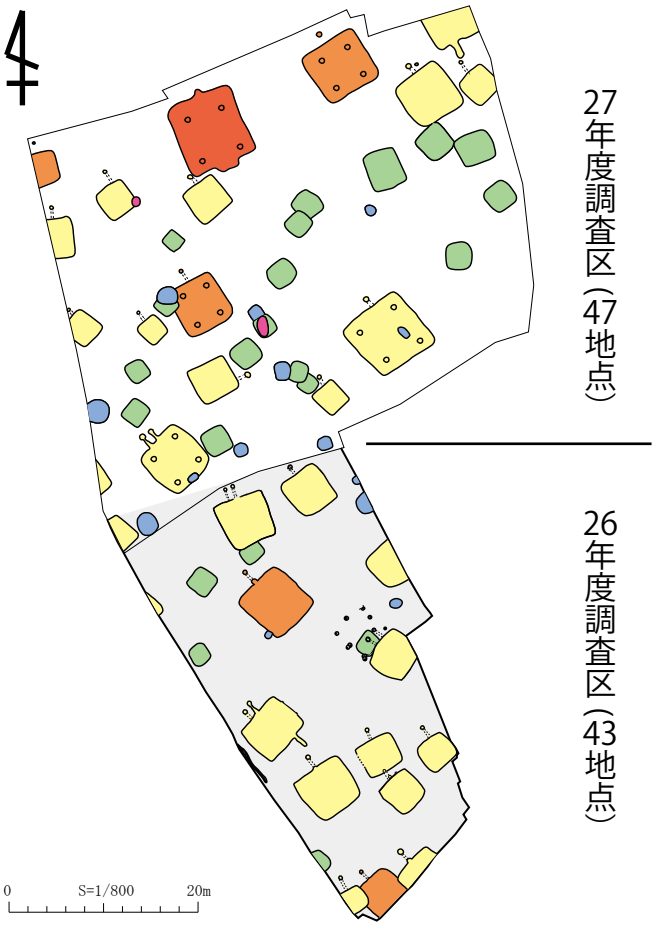
遺物は、土師器、須恵器、土製品（紡錘車・鞴の羽口・勾玉・土玉）、石製品（砥石・勾玉・管玉）、鉄製品（刀子・鋤鍬先・鎌・手鎌・鉄鏃・錫杖状鉄製品）などが出土しています。

注目される成果は、飛鳥時代の竪穴住居跡からは石製勾玉と管玉、奈良時代の竪穴住居跡からは土製勾玉が、平安時代の竪穴住居跡からは「墨書土器」がみつかっていることです。「墨書土器」は墨で字が書かれた土器のことで、今回の調査では「方人」（推定）と墨書された土師器が同一の竪穴住居跡から 4 点出土しています。読み書きができる人々とのつながりをもっていたのだと思われます。

４．まとめ

田面木遺跡は、これまで狭い範囲の発掘調査成果に限られていたため、その全体像や集落の様相がはっきりとはわかっていません。しかし、これまでにない広い範囲を調査した今回は、集落の一端を垣間見ることができました。例えば竪穴住居跡の数をとってみると、飛鳥から奈良時代にかけてその数が多くなり、平安時代に飛躍的に増加しています。田面木遺跡では、飛鳥時代に集落ができはじめ、奈良時代にかけて徐々に数を増やし、平安時代には大きな集落となっていた様子がわかりました。

今後は、今回みつかった各時代の遺構や遺物が、集落内で持つ意味や役割を検討し、古代の田面木の集落がどのように営まれたかをさらに明らかにすることが課題となります。　　（苧坪　祐樹）



27年度調査区（47地点）検出遺構

- 竪穴住居跡１棟（飛鳥時代）
- 竪穴住居跡３棟（奈良時代）
- 竪穴住居跡13棟（平安時代）
- 竪穴遺構17棟
- 土坑９基
- 炉跡２基

炭化材がみつかった竪穴住居跡（飛鳥時代）
（南北8.9m×東西7.5m）

勾玉（約３㎝）

管玉（約２㎝）

飛鳥時代の竪穴住居跡（左写真）から出土：実寸大

土製勾玉
奈良時代の竪穴住居跡から出土

八幡遺跡

１．遺跡の概要

八戸市大字八幡字館ノ下、字八幡丁に所在し、八戸市の中心部から南西へ約 5.5km に位置します。馬淵川右岸の東から西に向かって傾斜する、標高６～２０ｍの低位段丘上に立地しています。遺跡範囲の現況は、大半を明治小学校の敷地が占め、その他の場所は宅地・墓地となっています。八幡遺跡ではこれまでの調査によって、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の各時代にわたって数多くの遺構及び遺物がみつかっており、長年にわたりこの地に人々が住んでいたことが分かっています。

２．調査に至る経緯

今回報告するのは、八戸市教育委員会が調査を行った６地点目の調査です。６地点は、平成 26（2014）年に館公民館の建替えに伴い、八幡遺跡の隣接地として試掘調査が実施された場所です。試掘調査で古代の竪穴住居跡とみられる遺構や遺物が多数検出されたことから、八幡遺跡と一連の遺跡であることが判明し、同年に青森県教育委員会に届出、範囲変更が通知され、本地点が八幡遺跡の範囲に含まれました。

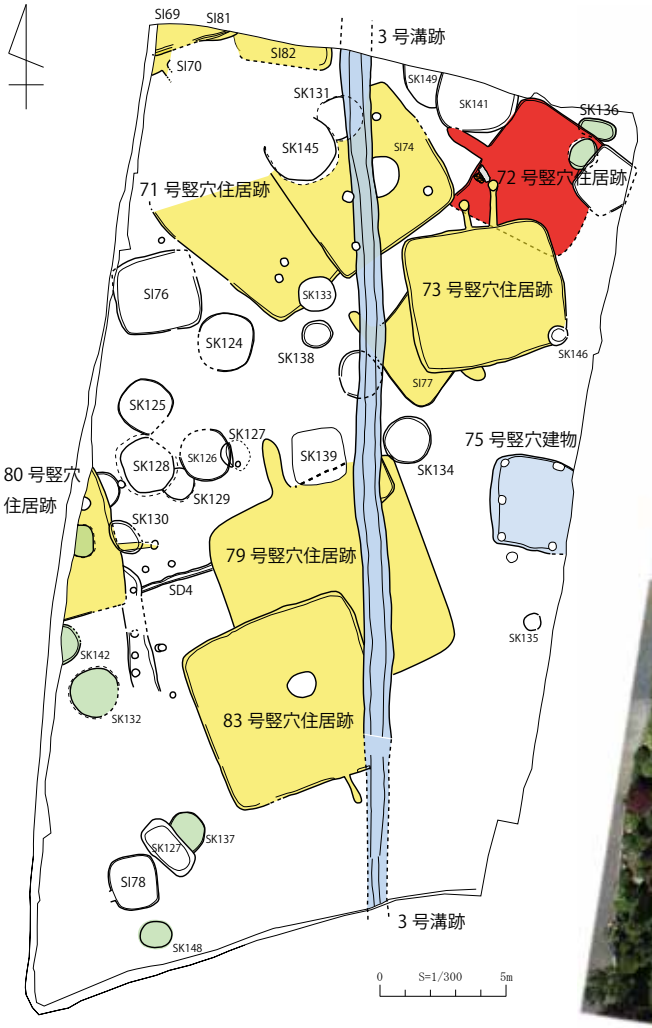
３．検出された遺構及び出土した遺物

調査期間は平成 27 年４月 13 日から６月 30 日に行い、調査面積は 930㎡です。調査の結果、住居跡 14 棟が検出され、このうち１棟が奈良時代、８棟が平安時代の竪穴住居跡です。検出した竪穴住居跡の大きさは６～８ｍで隅丸方形～長方形を呈し、その一辺にカマドが設けられています。平安時代の竪穴住居跡はカマドの向きが北東・東・南のものがあり、お互いが重なり合った状況で検出されています。そのほか、時期不明の竪穴建物跡１棟、縄文時代の土坑墓１基・土坑６期、時期不明の土坑 21 基、平安時代以降とみられる溝跡１条、ピットなど多数の遺構を検出しました。溝跡は幅約１ｍ、検出した全長で約 34 ｍあり、さらに調査区外に延びる状況が確認されています。出土遺物には、縄文土器・土製品（土偶）・石器、土師器・須恵器・土製支脚・鉄製品（鉄鏃・刀子・鉄製紡錘車など）、銭貨（紹聖元寶・元豊通寶）などがあります。

４．まとめ

八幡遺跡のこれまでの調査により、奈良・平安時代の竪穴住居跡が約 50 棟発見されており、古代の大規模集落が営まれた拠点的なムラであったと考えられています。これらの住居の多くは、古い住居を壊して新しい住居を構築しています。今回の調査で見つかった奈良･平安時代の竪穴住居跡も、同じ状況で検出されており、本地点がこれまでの調査で見つかった大規模集落の一部を成していたと考えられます。

調査区を縦走する溝跡（3 号溝跡）は、平安時代の竪穴住居跡を壊しており、平安時代以降につくられたものです。また、溝跡と竪穴建物 (75 号竪穴建物) の軸方向が平行しており、２つの遺構は同時期に存在していた可能性があります。竪穴建物は溝跡の東側に位置し、西側には平安時代以降とみられる建物跡はみつかっていません。溝跡と建物跡が同時期のものとすれば、溝跡は東側の建物跡がある領域と、その外側である西側とを区切る境界の役割があったと考えられます。（横山　寛剛）



縄文時代の遺構
奈良時代の遺構
平安時代の遺構
平安時代以降の遺構

八幡遺跡遺構配置図 (左) と全体写真 (右)

73 号竪穴住居跡全景 (上) と 2 つのカマド (下)
カマドは左が古く、右が新しいもの

調査区を縦断する溝 (3 号溝跡)

八戸城跡

1. 遺跡の概要

八戸城跡は、八戸市内丸に位置する江戸時代の城跡を中心とする遺跡です。これまでの調査によって、縄文時代・弥生時代・奈良時代・平安時代・江戸時代の遺構・遺物が検出されています。八戸城は、現在の三八城神社・三八城公園・八戸市公会堂に位置する本丸と、八戸市庁・南部会館・龍神社等が位置する二の丸から構成されています。寛永 6 年 (1629)、盛岡藩の代官所として築城されたと伝えられ、寛文 4 年 (1664) に八戸藩が成立した際に、藩主の居城・藩庁と定められました。その後、明治 4 年 (1871) の廃藩置県によって廃城となり、取り壊されるまで、八戸藩二万石の居城として使用されました。二ノ丸は、法霊社 (龍神社)・八幡宮・豊山寺といった社寺のほか、一族・重臣の屋敷地となっていました。

今年度の調査は、県道沼館三日町線整備に伴うもので、二ノ丸北側にあたる約 3,300㎡の発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代、平安時代、江戸時代、明治以降の遺構・遺物が検出されました。

2. 主な遺構

縄文時代の陥し穴 21 基、平安時代の竪穴住居跡 7 棟・土坑 16 基・溝跡 5 条、江戸時代の掘立柱建物跡・礎石建物跡・塀跡・柵列・柱穴約 400 個・土坑 10 基・ゴミ穴・植栽の痕・堀跡などを検出しました。中でも、調査区北端で八戸城外堀跡の一部を検出したことが今回の調査の大きな成果です。

八戸城外堀は、八戸城の外周をめぐるようにつくられており、現在はすべて埋まっています。過去の発掘調査で、二ノ丸南側や南東隅の外堀の一部を検出しています。

今回の発掘調査では、東西方向に約 70m にわたってのびる堀跡を確認しました。深さは現在の地表面から約 4.5m です。堀は、斜めに掘りこんだあと、法面（堀を掘ってできた斜めの斜面）に丁寧に粘土を貼りつけ、壁を成形しています。貼りつけられた厚さ 20cm の粘土をはがすと、本来の地山である砂利の層となりました。砂利の層からはたくさんの水がしみ出し、堀の壁がどんどん崩れてしまうため、堀の壁を保護するために粘土を貼ったと考えられます。堀底から約 1 m は、葦とみられる湿地に生える草を多量に含む土が堆積していました。北側の堀は、水堀であったといわれていますが、葦が茂った湿地のような状況だったのかもしれません。

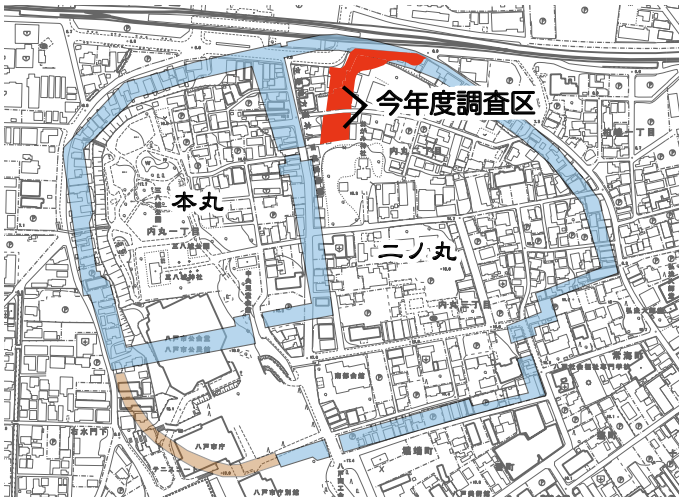
3. 主な遺物

堀跡からは、江戸時代の陶磁器とともにものさし・下駄・漆塗りの木製品・杭・柱材といった木製遺物が出土しています。陶磁器は、17 世紀中葉～後葉、18 世紀前葉の肥前産磁器・陶器、明治以降の磁器・陶器などです。これまで八戸城跡で出土している陶磁器は、18 世紀～ 19 世紀の遺物が多く、17 世紀代の遺物は稀です。17 世紀中葉～後葉は、八戸藩が成立した時期にあたり、外堀がつくられた時期をさぐる大きな手がかりといえます。

4. まとめ

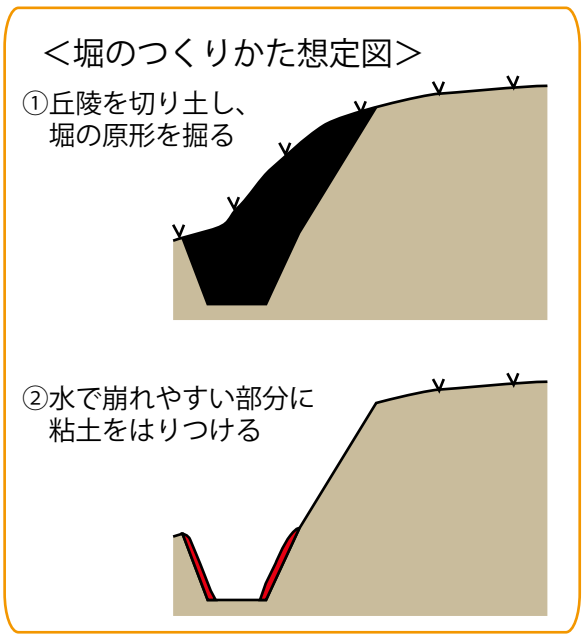
今回の調査では、八戸城外堀跡の検出により、外堀の深さや構築方法を確認することができました。初めて堀底を検出したことにより、現地表面からの深さ約 4.5m、二ノ丸の屋敷地からの高低差が 14 ～ 15m に及ぶことがわかりました。また、堀の法面に粘土層を貼って保護する工法も、今回の調査区で初めて検出された事例です。粘土層は混入物が少ない均質な土で構成され、堀普請にあたって非常に丁寧な工事が行われたことが伺えます。石垣をもたない「土造り」の城郭である八戸城がどのようにつくられ、維持されていたかがわかる、貴重な成果です。

(船場　昌子)



八戸城と堀の推定位置図

しがらみ状遺構

検出した外堀跡（黄色の部分が堀の推定位置）

堀の法面に貼られた粘土（黄色のラインが元々の地山）